

1. 背景とねらい

わい化りんご園の雑草防除体系は、昭和60年度に普及に移したが、その体系は吸収移行型除草剤を主体としたもので、これまで一般的に使用されてきた接触型除草剤は、同型の代表的なハラコート剤が、販売および使用上の制約を強く受けていたため、その使用体系は組んでいなかった。

その後、新たに接触型除草剤またはこれに類似した使い方の除草剤がいくつか登録されたので、今回、その使用体系を追補し、また、新しい除草剤及び適用拡大となった除草剤の使用方法を併せて参考に供する。

2. 技術の内容

1) 従来の散布体系に4の体系を追加し、また、各体系の吸収移行型（低濃度）を吸収移行型（低濃度または高濃度少量）に改める。

優先草種	体系	1回目	2回目	3回目
弱雑草	4	吸収移行型（低濃度または高濃度少量または接触型	吸収移行型（低濃度または高濃度少量または接触型	吸収移行型（低濃度または高濃度少量または接触型

4の体系で2回目以降に強雑草が増えた場合は、吸収移行型（高濃度）を散布する。

2) わい化りんごに使用できる除草剤、散布方法等を一部変更する。

(1) 追加 茎葉吸収移行型 クリネート液剤高濃度少量散布（250ml/25l；100倍）
 接 触 型 シクワット・ハラコート液剤（800～1000ml/100～150l）
 ピアラクス液剤（500～1000ml/100～150l）
 ピアラクス水溶剤（500～1000g/100～150l）

(2) 削除 接 触 剤 ハラコート液剤（クラネキソス、ハラベットSD）
 接触・土壌処理型 DCMU・DCPA・XMC水和剤（クサタウンドX）

3) 吸収移行型除草剤の高濃度少量散布は、低濃度と同様に弱雑草を対象に散布する。

3. 指導上の留意事項

- 1) 除草剤を散布する場合は、それぞれの専用噴口、散布器具を使用する。特にクリネート剤高濃度少量散布の場合は、少量専用ノズルを用いるので、間違えないよう注意する。
- 2) 弱雑草に対してクリネート剤を使用する際、草量が多い場合は低濃度散布、少ない場合は高濃度少量散布がよい。
- 3) シクワット・ハラコート剤は、従来のハラコート剤と同様、購入の規制や安全使用上の規制があるので注意する。
- 4) ピアラクス剤は、接触型の作用が主であるが、吸収移行型の作用も含んでおり、特にクローバーに効果が高い。

4. 参考資料

- 1) 昭和57, 59, 61年リンゴ用除草剤・生育調節剤試験成績書
- 2) 昭和59～61年果樹部試験成績書

5. 試験成績

表1 グリコト液剤の殺草効果

試験区	草種	草丈 (cm)	処理(日)後の殺草効果						再生の程度				終了時		減成(%)		
			1	3	5	10	15	20	30	10	20	30	45	草丈 (cm)	処理	終了	
グリコト 250ml /25l	イカリソ	35	-	±	≡	≡	≡	≡	≡	≡	-2	-1	20	40	0		
	イカリソ	40	-	±	±	±	≡	≡	≡	≡	+	+	90	13	0		
	スベリヒ		-	±	+	≡	≡	≡	≡	≡	-2	-2	-1	15	0	35	
	クハ		-	±	+	+	+				-1	-1		10	0	9	
	ハコハ	25	-	+	≡	≡	≡	≡	≡	≡	-2	-2	-1	10	18	0	
計	イカリソ	50	-	+	≡	≡	≡	≡	≡	≡	-2	+	80	13	0		
	スベリヒ		-	±	≡	≡	≡	≡	≡	≡	-1	+	40	0	5		
	計															67	
グリコト 300ml /150l	イカリソ		-	≡	≡	≡	≡	≡	≡	≡	-2	-1	0	35			
	イカリソ		-	+	≡						-2	-1	0	+	45		
	スベリヒ		±	≡	≡	≡	≡	≡	≡	≡	-2	-1	-1	0	35		
	クハ		±	≡	≡	≡	≡	≡	≡	≡	-1	-1	0	30			100

- 注) 1 昭和60年夏処理
 2 殺草効果の基準
 - 効果なし。
 ± 効果が認められる。
 + 効果が認められるが、葉全体におよばない。
 ≡ 葉全体にみられるが、茎までおよばない。
 ≡ 葉茎とも草全体に効果がみられる。
 × 株が枯死し、再生がみられない。
 3 再生程度の基準
 なし 全く再生のみられないもの。
 -2 再生の程度が著しく少ないもの。
 -1 全面または明らかに再生がみられるが、刈取りを要しないもの。
 0 刈取りの必要が認められる程度の再生。
 +1 「0」状態を上回るもの。

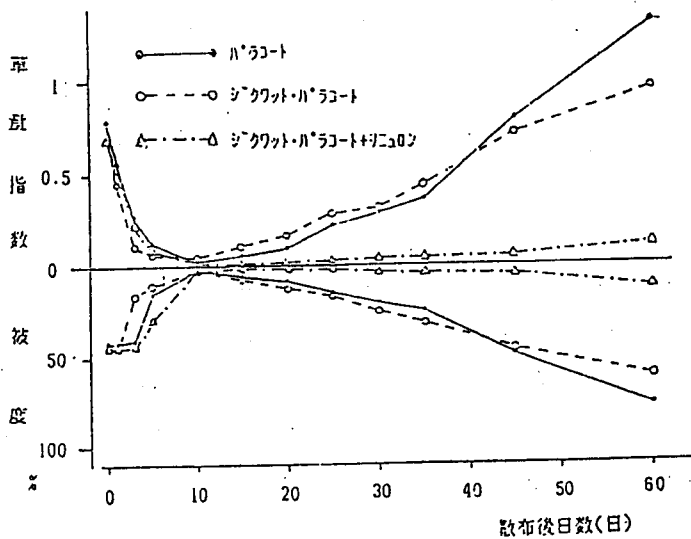


図-1 グリコト・ハコハ液剤の効果(61年夏処理)

注) 草量指数 = $\frac{\sum (\text{各雑草の減成}(\%) \times \text{草丈}(\text{cm}))}{1,000}$ で算出

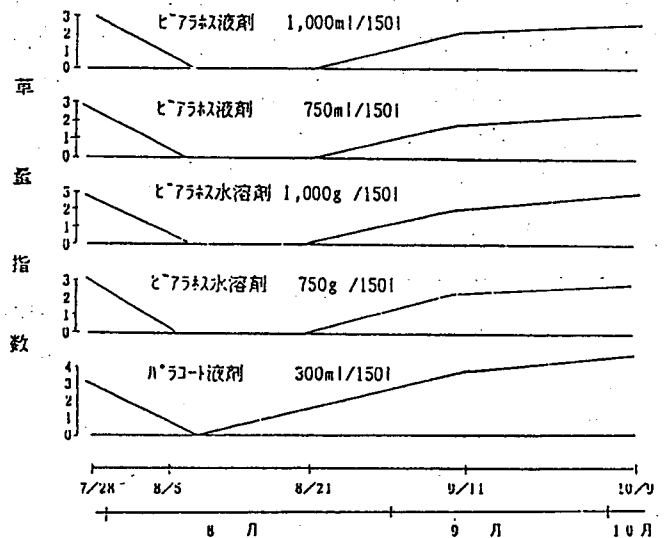


図-2 グリコト液剤水溶剤の効果(59年夏処理)

注) 草量指数の算出方法は図1に同じ